



お別れの準備

2月も下旬を迎えました。帰国まで残り1ヶ月を切り、ソワソワした気持ちも増してきています。色んなところで『寂しいね』『またパラオに来てね』『ありがとう』と声をかけてもらい、本当に色んな方々に支えられているんだと実感しています。

パラオと日本はそれほど遠い国ではありません。距離にして約3000km、直行便だと片道約4時間。来ようと思ったら、また来られる距離にあるのかもしれない。でも、パラオでお世話になった人たちの中には、もう会うのが最後になる人もいるんだろうなあ…と感じています。人との出会いは一期一会です。パラオでの日常を支えてくれた人たちに、最後どんな風にお礼を伝えようかな、どんなお別れができたらいいかなと考えてばかりいる毎日です。

3年生も毎日顔を合わせていた友だち、先生方、後輩、学校…どんどんこれまでの日常とのお別れが近づいてきていますね。受験に向けても忙しい時期に入ってきているかもしれませんが、一日一日を噛みしめて過ごしてください。残りの学校生活、受験、卒業式…素敵なものになることを願っています(^)

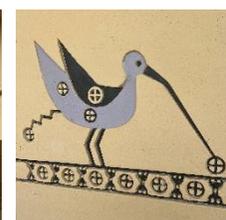
👉先日、同じ名前の女の子に出会いました。こういうのも一期一会、嬉しいですね！



【パラオ日記】



★パラオの首都はマルキョクという、人口が一番多いコロールから車で30分くらいにいったところにあります。2006年にコロールからマルキョクに首都が移転されました。マルキョクには国会議事堂があります。とても立派な建物ですが、面白い絵が描かれています。下の写真にある顔は全部で16個描かれており、16州からなるパラオ各州の守り神を表していると言われているそうです。この鳥はパラオでは幸せの象徴とされており、パラオにお金を持ち込んだとも言われています。お金を食べて、おしりからお金を出すそうです。



十字の丸い絵がお金を表しているそうです。パラオでは通称『マネーバード』と言われています。👉

👉手前に写っているのは『ブルメリア』というお花で、パラオ語で『エリライ』といいます。

★先日、隊員が所属する学校にお邪魔して、学校の見学と体育の授業を一緒に行いました。この学校には全ての教室にペイントがほどこされており、素敵な雰囲気の中、授業が行われていました。また、午後の授業では3~8年生の男子たちが集まり、3月のCultural weekというイベントに向けて伝統的なパラウワンダンスの練習をしていました。暑い中、大きな声を出し、真剣な表情で練習に励む姿にとっても感動しました。



パラオのシューカンってどんなもの？

パラオ人は休日になると男性は魚釣り、女性は畑仕事などをして過ごしていることが多いようですが、それと並んで多いのが『シューカン』です。シューカンは日本語の『習慣』から来ている言葉のようで、ベビーシャワーや誕生日のお祝い事、お葬式などが含まれます。親戚の多いパラオ人はほぼ毎週のように週末にはシューカンがあるようです。パラオに来てから色々なシューカンに参加させていただきましたが、特にパラオならではの『オモガット』と呼ばれるベビーシャワーについて紹介したいと思います。ベビーシャワーは本来、赤ちゃんが生まれる前に安産を祈願して行うパーティーのようですが、パラオのベビーシャワーは赤ちゃんが生まれてから行われます。



主役の女性は伝統的な衣装を身に着け、ウコンやオリーブオイルなどを肌に塗ってみんなの前に登場します。

➡主役の女性は暑くても動くことができないため、隣には汗を拭いたり水を飲ませてくれる人が付き添います。



パラオでのイベントには必ずと言っていいほど有名な歌手がやってきて歌ってくれます。それに合わせてみんな手に1ドル札をもって何時間も踊ります。💰



／👉親戚みなでお揃いのTシャツを着てパシヤリ〜

以前までは男性は参加できないイベントだったようで、参加人数でいうと今でも男性はとても少ないです。
赤ちゃんもお披露目！泣かずに頑張っていました★



＼トクベツな食べ物がたくさん用意されています＼



通常シューカンは土日に行われますが、その準備のために平日も忙しいそうです。また、シューカンでは寄付金としてお金を払うことが一般的なため、親戚が多い人はシューカンでお金がない…と言っている人もいます。家族の繋がり、絆がとても強いのがパラオの社会です。